

今、この世に求められる「少欲知足」

少欲知足で生きられれば、環境破壊はそもそも起こらない。

エネルギーの浪費と枯渇、戦争への危機、不平等による格差社会、モラルの崩壊、さらには、無差別殺人など、いのちが軽視されるにまでも・・・

2500年前、すでにお釈迦さまは、

〈足ることを知っている人は、たとえ貧しい生活であっても幸せを感じている。

しかし足ることを知らない人は、いくら裕福であっても心は貧しい。〉

と、おっしゃっています。

皆つながり、支えあい、生かされて生きているわたしたち。

一人ひとりの心がけで世の中が変わります。

「環境・平和・いのち」について、今、私たちがやるべきことを考えませんか。

皆が共に歩むために・・・

プロフィール

■玄侑宗久（げんゆう・そうきゅう）

1956年、福島県生まれ。慶応義塾大学文学部中国文学科卒業。作家。臨済宗妙心寺派福聚寺住職。福島県警通訳（英語・中国語）。妙心寺派現代宗学委員。2001年、著書『中陰の花』で第125回芥川賞受賞。2007年には柳澤桂子氏との往復書簡『般若心経 いのちの対話』で第68回文藝春秋読者賞を受賞。近著には徘徊をテーマにした『龍の棲む家』（文藝春秋）、フィリピンから嫁いだテルちゃんを主人公にした『テルちゃん』（新潮社）など小説のほか、養老孟司氏との共著『脳と魂』（ちくま文庫）、五木寛之氏との共著『息の発見』（平凡社）などの対談本も多い。

■上田紀行（うえだ・のりゆき）

1958年、東京都生まれ。東京大学大学院博士課程修了。文化人類学者。博士（医学）。東京工業大学大学院准教授。「癒し」の観点を最も早くから提示し、現代社会の諸問題にもテレビ、新聞等で積極的に提言を行う。日本人の生き方の再生を訴えた著書『生きる意味』（岩波新書）は、2006年全国大学入試において40大学以上で取り上げられ、出題率第1位の著作となる。また、『がんばれ仏教!』（NHK ブックス）では活気ある寺と僧侶のあり方を論じたほか、インドで2日間にわたってダライ・ラマ14世と21世紀社会の展望と宗教の役割をめぐる対談を行い、『目覚めよ仏教!? ダライ・ラマとの対話』（NHK ブックス）として刊行した。

■釈 徹宗（しゃく・てっしゅう）

1961年、大阪府生まれ。龍谷大学大学院文学研究科真宗学専攻博士課程・大阪府立大学大学院人間文化研究科博士課程修了。学術博士。兵庫大学准教授。浄土真宗本願寺派如来寺住職。認知症高齢者のためにグループホーム「むつみ庵」を運営するなど多彩な活動を展開する。著書には『親鸞の思想構造—比較宗教の立場から—』（法蔵館）、『いきなりはじめる仏教生活』（バジリコ）、『仏教ならこう考える』（学研新書）、また内田樹氏との共著『いきなりはじめる浄土真宗』（本願寺出版社）、『はじめたばかりの浄土真宗』（本願寺出版社）などがある。論文「不干斎ハビアン論」で第5回涙骨賞（中外日報社）を受賞。